



平成30年3月14日
海上保安庁

平成29年における海難発生状況（確定値）

～船舶事故は初めて2,000隻を下回る～

○ 船舶事故（※1）

- 船舶事故隻数は、前年比37隻減の1,977隻で、平成13年から開始した現在の統計手法で初めて2,000隻を下回った
- 漁船が87隻、旅客船が23隻、貨物船が19隻減少する一方、プレジャーボートが51隻、タンカーが7隻それぞれ増加
- 小型船舶（※2）による事故隻数（1,529隻）が船舶事故全体の約8割を占めている
- 船舶事故に伴う死者・行方不明者数は、前年比26人増の82人

○ 人身事故（※3）

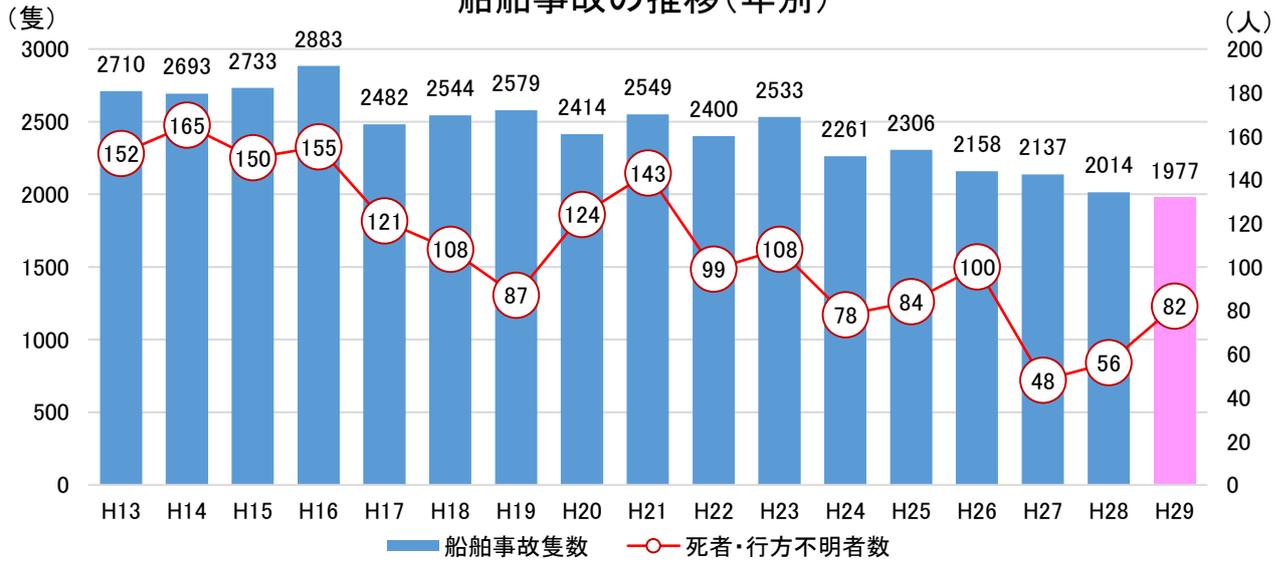
- 人身事故者数は、前年比27人減の2,633人
- マリンレジャーに伴う事故者数は、前年比95人減の805人で、釣り中及び遊泳中の事故者数が約7割を占めている
- 人身事故に伴う死者・行方不明者数は、前年比21人減の1,071人

※1 「船舶事故」とは、船舶の衝突、乗揚、転覆、浸水、爆発、火災、行方不明及び機関、推進器、舵等の損傷又は故障及びその他安全な運航が阻害された事態をいう。

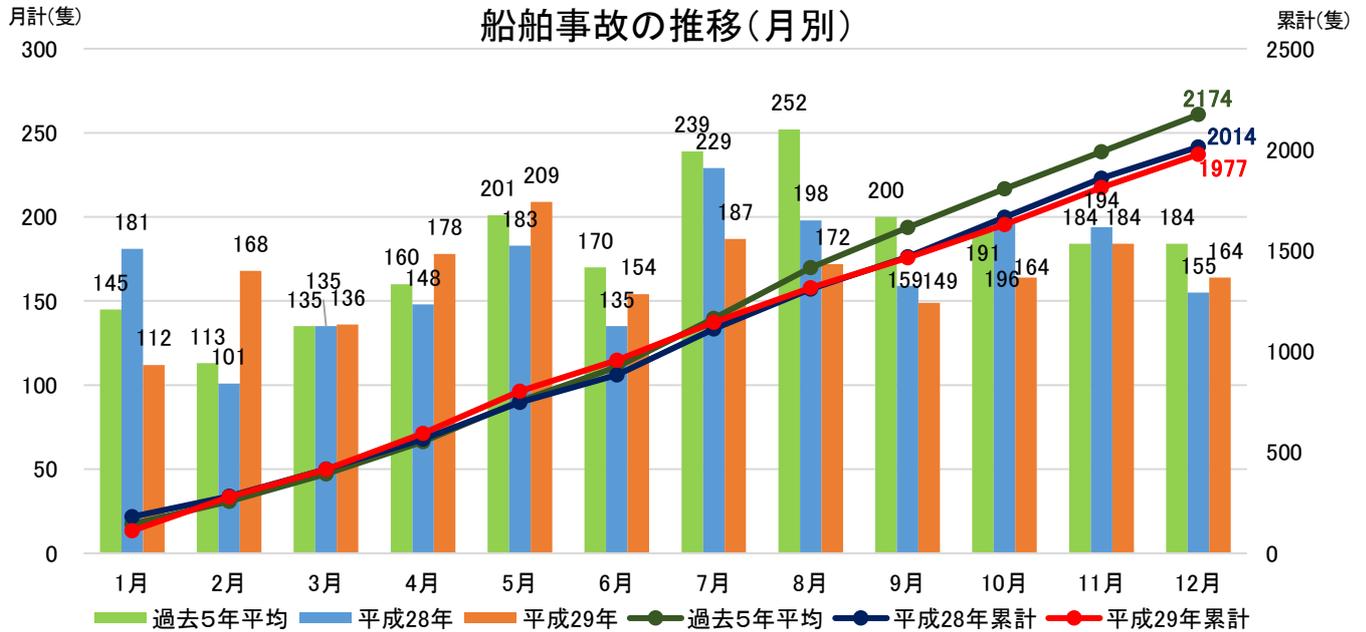
※2 「小型船舶」とは、漁船、遊漁船及びプレジャーボートをいう。

※3 「人身事故」とは、海浜等において発生した負傷、溺水等の事故及び船舶乗船者の負傷、海中転落等の事故（船舶事故に伴うものを除く。）をいう。

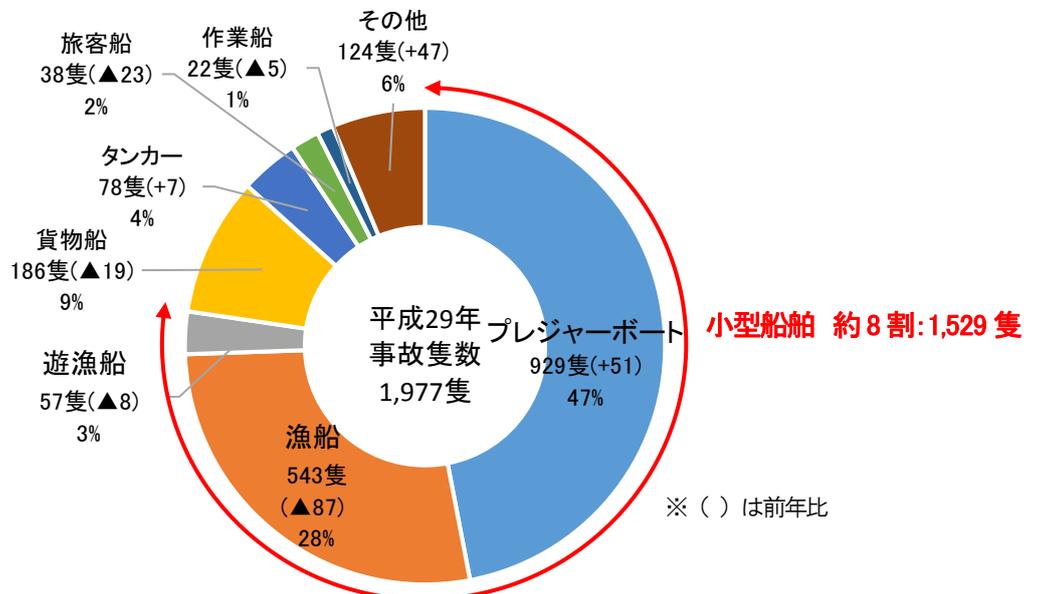
船舶事故の推移(年別)



船舶事故の推移(月別)



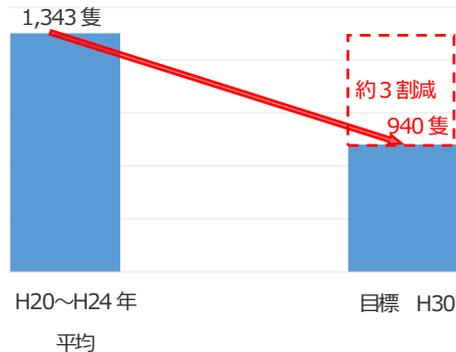
船舶種類別の割合



(参考)

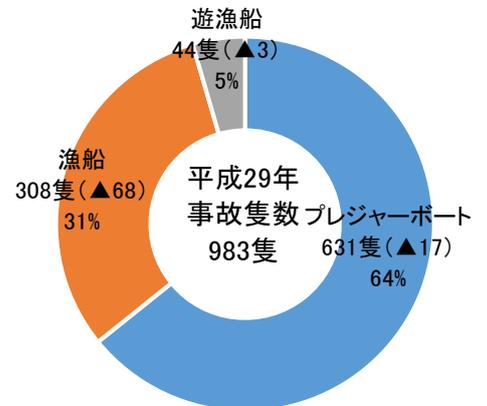
◇第3次交通ビジョン目標(H26年～H30年)

不可抗力を除く小型船舶の事故について、H20年からH24年までの年平均約1,343隻に対して、H30年までに約3割減少させる。(事故数約940隻へ)



不可抗力:異常な気象海象(豪雪や津波)等が原因であり乗組員の知識、技能又は注意力によっては事故を避け難かったもの。

小型船舶別の割合 (不可抗力を除く)



◇第10次交通安全基本計画目標(H28年度～H32年度)

2020年代中に我が国周辺で発生する船舶事故隻数(本邦に寄港しない外国船舶によるものを除く。)を第9次計画期間の年平均(2,256隻)から約半減(1,200隻以下)することを目指し、我が国周辺で発生する船舶事故隻数を平成32までに少なくとも2,000隻未満とする。

【主な船舶事事故事例】

発生月 2月

事故船舶 漁船A丸(19トン、乗員4名)

概要 漁船A丸は、秋田県入道埼沖を航行中に確認されたのを最後に連絡途絶となった。その後の捜索により、青森県大間埼沖にて転覆中のA丸が発見され、船内からは乗船者2名が救助されるも死亡が確認された。残る2名については現在まで発見に至っていない。



事故船舶

発生月 7月

事故船舶 プレジャーボートA丸(1.8トン、乗員10名)

概要 プレジャーボートA丸は、花火大会観覧を終え、広島県福山沖を帰港中のところ、防波堤に衝突し、乗員10名が負傷した。



事故船舶

発生月 7月

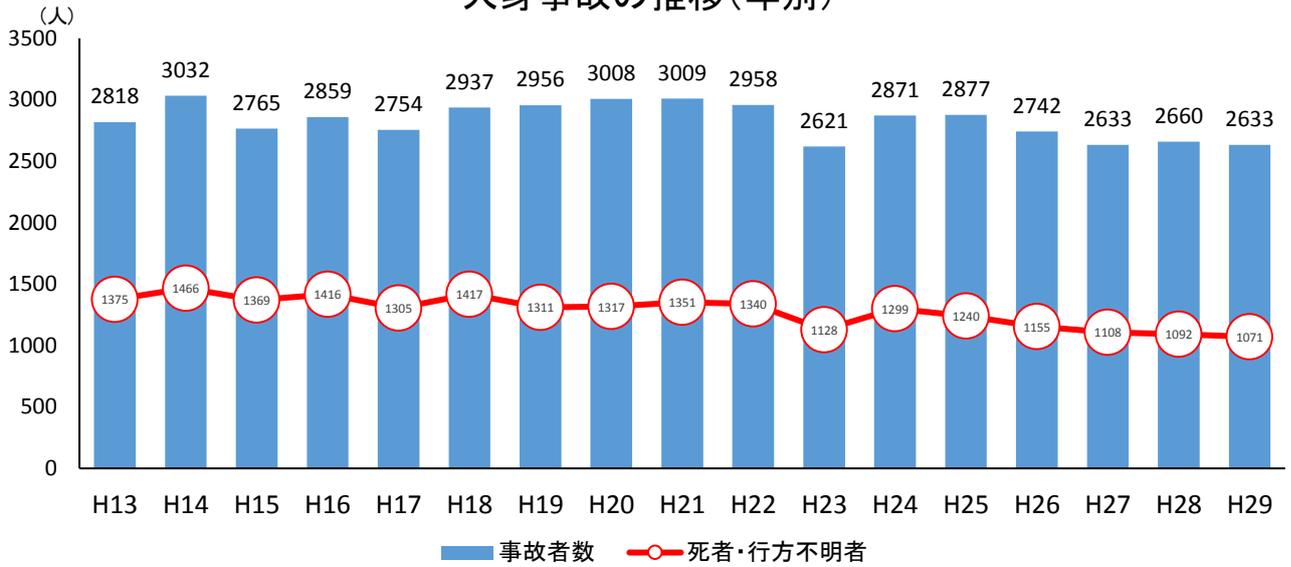
事故船舶 旅客船A丸(84トン、乗客29名、乗員2名)

概要 旅客船A丸は、兵庫県神戸空港向け航行中のところ、神戸空港東進入灯台E2施設灯の支柱に衝突し、乗客15名が負傷した。

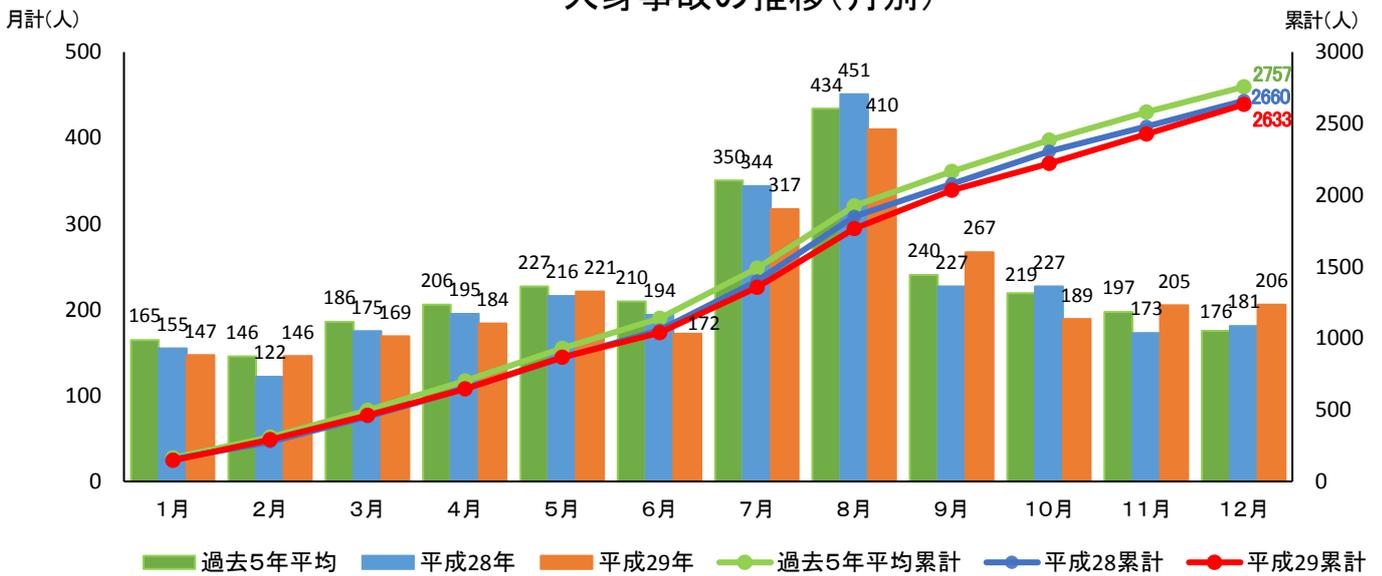


事故船舶

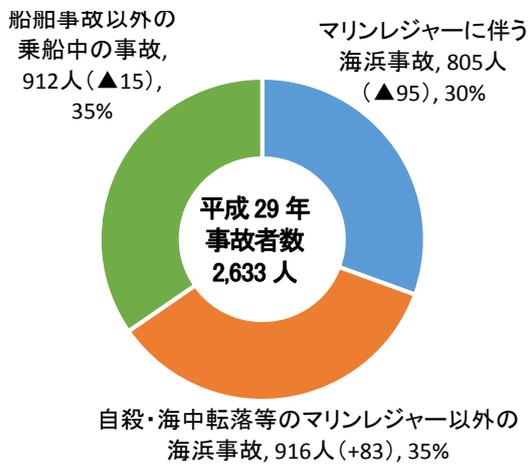
人身事故の推移(年別)



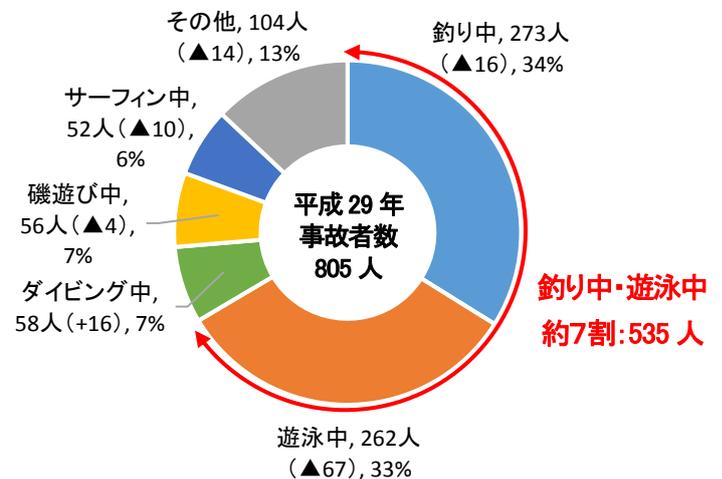
人身事故の推移(月別)



人身事故の区分別の割合

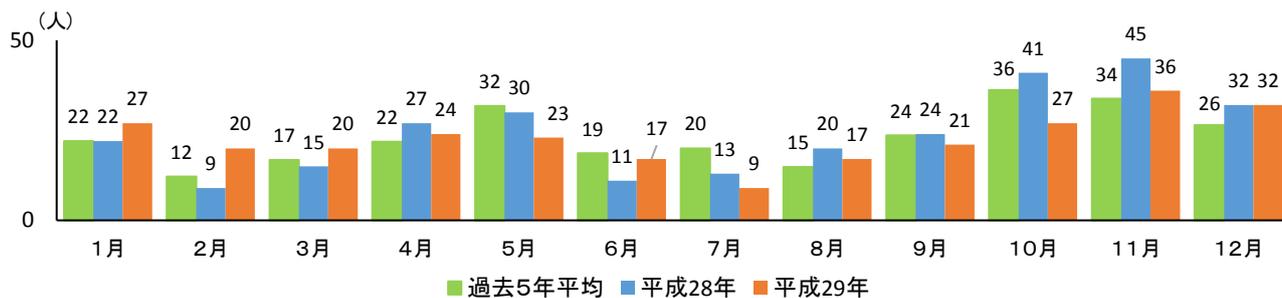


マリンレジャーに伴う海浜事故

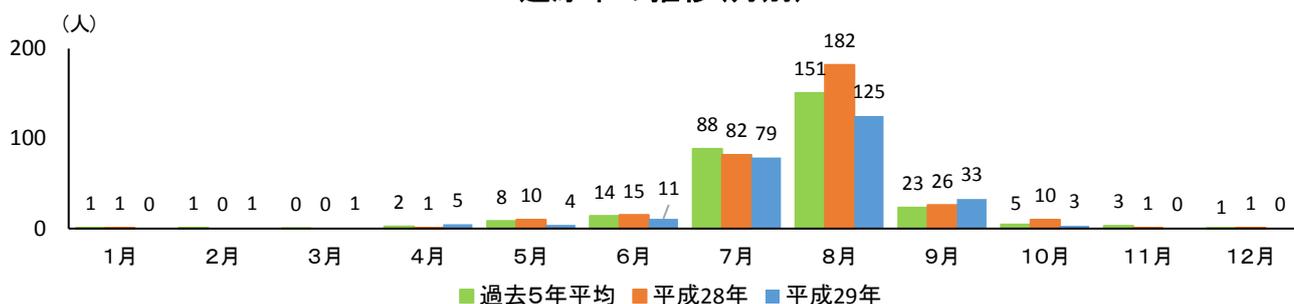


※ () は前年比

釣り中の推移(月別)



遊泳中の推移(月別)



【主な人身事件事例】

発生月 8月

事故者 釣り人(男1名、52歳)

概要 宮城県名取市の漁港防波堤に、立入禁止柵を越えて進入し、2名で釣り中のところ、救命胴衣非着用の1名が誤って海中転落。同行者がうつ伏せ状態で浮いている同人を発見。119番通報及び救助するも、病院にて死亡が確認された。



防波堤立入禁止柵

発生月 8月

事故者 遊泳者2名(男7歳、5歳)、救助者2名(男36歳、49歳)

概要 家族5名で、福岡県古賀市の海水浴場ではない海岸へ訪れ、両親が目を離した間に、男児2名が流され、父親及び目撃した付近男性が救助に向かったが、全員沖に流されたもの。同日、4名とも発見され、病院に搬送されるも、全員の死亡が確認された。



捜索状況

発生月 8月

事故者 遊泳者3名(男18歳、18歳、17歳)

概要 友人10名で、北海道小樽市の海水浴場では無い海岸へ訪れ、5名が沖に設置された消波ブロックへ向け泳いでいたところ、足が着かなくなったことから、戻ろうとしたところ、3名の行方が分からなくなったもの。捜索の結果、3名とも発見されるも、死亡が確認された。



捜索状況